

【サービス監督者対象】在宅勤務に関するアンケート結果報告

[報告者・問い合わせ先] 筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター/就職課
ダイバーシティ担当ディレクター 樋熊亜衣 (diversity@un.tsukuba.ac.jp)

【アンケート概要】

実施期間：2020年6月24日（水）～7月1日（水）

実施方法：オンラインによる実施（WEB 回答方式）

対 象：筑波大学 事務系組織のサービス監督者

回収率：79.6%（回答数：43/54名）

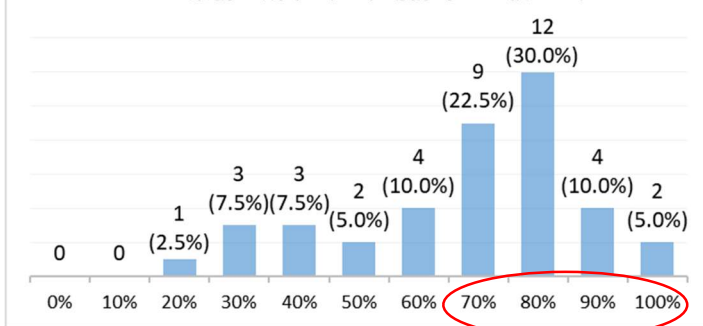
【結果サマリー】

- 93.0%が、在宅勤務を「実施した」と回答。
- サービス監督者の67.4%は、業務内容や職員個々の事情によって在宅勤務/出勤を振り分けたと回答。
- サービス監督者の65.1%は、職員のほとんどが「業務を達成できた」「通常勤務よりも業務が捗った」と感じていた。
- サービス監督者の67.5%は、通常時と比較した部局内の業務達成率について、7割以上達成できたと回答している（内15%が、9割以上達成できたと回答）。
- サービス監督者の67.4%は、コロナ終息後も職員の希望があれば在宅勤務を継続したいと回答している。

【出てきた意見・要望】

- 学外から学内システムを利用できるようにしてほしい（在宅勤務では業務が進まない場合がある）
- 他部局の在宅勤務の状況が分かるようにしてほしい（他部局からの問い合わせや調整が滞る場合がある）
- 職員のネット環境を整備してほしい（ネット環境が不安定だと業務が進まない場合がある）
- 各部局での対応ではなく、大学全体としての方針・ルールを制定してほしい。

グラフ7：業務達成率（通常勤務時と比較して）



グラフ9：職員からの意見・感想(N=30)

